

Pottery specialization, social organization and the origin of early state: the comparison study between Taosi Culture and Erlitou Culture

白, 楊

<https://hdl.handle.net/2324/7157402>

出版情報 : Kyushu University, 2023, 博士 (学術) , 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏名	白 楊			
論文名	Pottery specialization, social organization and the origin of early state: the comparison study between Taosi Culture and Erlitou Culture (土器の専門化、社会組織と初期国家の起源: 陶寺文化と二里頭文化の比較研究)			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	宮本一夫
	副査	九州大学	教授	溝口孝司
	副査	九州大学	准教授	辻田淳一郎
	副査	九州大学	准教授	田尻義了
	副査	熊本大学	准教授	久保田慎二

論文審査の結果の要旨

本論文は、中国における初期国家形成過程を論ずるにあたって、土器の専門化の在り方を指標として、初期国家形成過程を論ずるものである。対象とする時代は、中国中原地域における新石器時代後期の陶寺文化から青銅器時代の二里頭文化の移行期に至る時期であり、今日、中国考古学界でも初期国家形成期として論争の対象となっている時代である。土器生産の専門化を土器という物質資料のみから探るにあたって、土器の形態的な斉一性や土器胎土の斉一性を問題とする。斉一性を科学的に論証するため、土器の形態やサイズあるいは胎土の化学組成を対象として、EFA や CV あるいは ANOVA や MANOVA といった変異度分析を、多変量解析によって統計学的に分析して斉一性を示した初めての論文である。また、葬送分析から、陶寺文化の副葬用の彩絵土器や二里頭文化の白陶である酒器が階層上位者の威信財として用いられていたことを示した。陶寺文化の階層上位者の副葬土器である彩絵土器の場合、土器の斉一性は低く、その生産は家内制手工業段階に近いものと考えた。さらに、このような威信財的な土器と日常土器の形態と胎土の統計学的分析を進め、二里頭文化2・3期の白陶がより斉一化していることを明らかにした。その白陶の生産は南窪遺跡という二里頭遺跡から離れた別集団による専門的な生産であり、二里頭遺跡の階層上位者の生産への関与が考えられる。しかしながら、二里頭文化3・4器に現われる青銅礼器は、二里頭遺跡において階層上位者に従属する工人によって専門的に生産されており、二里頭の階層上位者が管理するとともに他集団を統合する政治的なアイテムであった。そうした二里頭文化3・4期には、宮殿区の日常土器においても、形態の統計学的な分析から斉一性が高まり、土器の専門化が示されている。貴族層の日常土器においても、その管理下において斉一的な土器生産がなされ、初期国家形成期の在り方を示している。その点で、二里頭文化に継ぐ殷王朝の最初の副都である偃師商城の場合、日常土器の形態的な斉一化すなわち土器の専門化がより進んでいる。

以上の成果は、土器の形態的な斉一化と胎土の斉一化を統計学的に示すことにより、土器の専門化過程を示し、中国における初期国家形成過程を論じたものである。こうした研究は、これまで中国考古学の同分野において行われてこなかった独自性をもち、同分野の発展に貢献するものであり、学位論文として博士(学術)の学位に値すると認められる。